

新春対談



約7割のランマーが 三笠産業の製品

菅野 お忙しい中、貴重な時間をつくっていただきありがとうございます。三笠産業の製品は使いやすいうえ、丈夫で故障が少ないので、ユーザーからの評価が非常に高いです。

京谷 ありがとうございます。

菅野 先日、群馬県館林市の工場を見学させていただきましたが、頑丈で高品質の製品をつくってユーザーを満足させるというポリシーがとても伝わってきました。

京谷 われわれは道路工事などで地盤を締固めるランマーといたった小型機械、コンクリートの密度を高めるバイブレーターを主力として扱っておりますが、研究投資を毎年続けて、新製品の開発を進めてきたこともあり、おかげさまでランマーでは約7割の国内販売シェアをいただいております。



三笠産業の締固め機械は国内外で高いシェア率を占め、機能性、耐久性ともに評価が高い

使いやすさ、負担軽減を 追求する製品開発

菅野 昨今の建設業界では人手不足を背景に、情報技術を施工現場に活用するアイコンストラクション（ICT）の導入や、女性の人材活用などが注目されていますが、これからの製品開発についてどのようにお考えですか。

京谷 現場作業員の高齢化などで使いやすい製品というニーズが非常に求められているなかで、ICT導入の流れは小型機械にもきています。ただ、われわれが扱う製品の使用環境は過酷ですので、高性能な機能を付け過ぎて現場で故障するリスクを増やしてしまってもユーザーにご迷惑が掛かりますから、どこまでIT化を進めるべきか見極めていくところです。

菅野 IT化の判断が難しいところですが、建設業の担い手がこれから減ってきますので、ス

三笠産業 & 東北リース



防音型ランマー（左）と
低騒音型プレート（右）

スマートフォンで地盤の締固め具合が数値化できたり、女性でも簡単に扱えるように遠隔操作できたり、経験の浅い作業員でもベテランのような成果を出せるような、そういった技術革新が今後求められるような時代になると思います。

京谷 そうですね。そのなかでわれわれが先行して取り組んできたのは使いやすい部分で、例えば、昔のランマーは本体と一緒にハンドルも飛び跳ねていましたが、重心を工夫してハンドルに伝わる振動を打ち消すアンチバイブレーションシステムを開発し、作業員の体の負担を

格段に軽減しました。また、バッテリーコンパクターという製品では、締固め具合を目で確認できる転圧センサーを搭載してベテランと同等に効率よく働けるように、技術開発を行っております。

メーカー、レンタルが 互いに学ぶ環境を

菅野 製品以外でも、御社のアフターサービスはスピーディーで充実していますね。

京谷 部品の注文などはすべてインターネットで即対応しますし、お客様の要望があれば技術講習会も行ってトータル的なサービスの向上に取り組んでいます。また、2018年1月に稼働を予定している春日部市の部品サービスセンターにはトレーニングセンターを設けて、

われわれやお客様が技術研修などに利用できる施設にしようと計画しています。

菅野 それは頼もしいですね。

貸す側もレンタルする製品の知識やメンテナンス技術を高めて、お客様の要望に応えたいと常に考えていますので、メーカーと互いに研さんを積める施設があれば、理想的な関係に近づくとおもいます。

京谷 そうですね。

これからも技術研修も含めて人材育成に取り組むことで、お客様にさらに喜んでいただけるようなサービスを目指していきたいと考えています。そして、エンドユーザーと直接取引するレンタル業者様の声をしっかりと製品開発にフィードバックさせてよりよいものを提供していきたいです。

菅野 われわれも三笠産業の製品の良さを伝えられるレンタルを目指していきます。きょうはありがとうございました。



■きょうや ひろなり
1983年三笠産業㈱入社。1993年取締役副社長、1998年7月に代表取締役社長就任。同年9月から日本建設機械工業会の理事も務める



■かんの ひろあき
1994年8月東北リース㈱代表取締役就任。宮城県建設機械リース業協会会長、日本建設機械レンタル協会宮城支部長、宮城県レンタカー協会中央支部長も務める

